

1. 実況上の着目点

- ① 大型で強い勢力の台風第13号が、沖縄本島の東を西進。台風の影響で、南西諸島では非常に強い風が吹き、猛烈なしけの所がある。西日本太平洋側では、台風からのうねりが到達し、大しけの所がある。台風周辺の発達した雲域が南西諸島付近に広がり、激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5760m付近で-6℃以下の寒気を伴うトラフ対応の沿海州の前線を伴う低気圧が東進。前線がサハリン付近から大陸へのびている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風第13号は、強い勢力を維持し、7日に沖縄本島に最接近した後、8日にかけて速度をやや落としながら東シナ海へ西進し、その後、9日は華中の沿岸付近へ進む。台風の影響で、猛烈な風が吹き、猛烈なしけとなる所や、うねりが到達し、大しけとなる所がある。沖縄地方と奄美地方では8日にかけて、暴風、うねりを伴う高波に厳重に警戒。東～西日本太平洋側では8日にかけて、うねりを伴う高波に警戒・注意。西日本太平洋側と南西諸島では9日は、うねりを伴う高波、暴風に警戒・注意。台風周辺の発達した対流雲、台風の周辺から流れ込む下層暖湿気、日中の昇温の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨が降る所がある。西日本の東～南東斜面では下層暖湿気の流入と地形性上昇の影響で雨量が増加する所がある。沖縄地方では8日にかけて、奄美地方では7日は、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。沖縄地方では8日にかけて、奄美地方では7日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。北～西日本では8日にかけて、土砂災害と大雨に注意・警戒。8日にかけて1項②のトラフが日本海北部へ進み、北日本の上空に寒気が広がり、1項②の大陸へのびる前線が北海道付近を通過し、大気の状態が不安定となる。全国的に8日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。太平洋高気圧の張り出しの影響で晴れて昇温し、東～西日本では9日にかけて、猛暑日となる所がある。熱中症による人の健康に係る被害が生ずるおそれがある。

- ② 2項①のトラフは、北～東日本へ進み、広い範囲で上空に寒気が広がる。台風に向かう下層暖湿気や地上の昇温、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。九州南部と沖縄地方では9日は、土砂災害、大雨に注意・警戒し、全国的に9日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。竜巻などの激しい突風にも留意。北～東日本でも9日は、警報級の大雨に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とするが、GSMの台風第13号の強度予測は過大傾向であることに留意。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕 ① 雨量(06 時からの 24 時間)：九州南部・奄美・沖縄 200、四国 180、九州北部 150、東海 100mm。② 波浪(明日まで)：奄美 11、沖縄 10、九州南部 8、四国・九州北部 6、近畿 5、伊豆諸島・東海 4、東北・関東 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 全般気象解説情報(台風第13号)を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図